

# 地方史の動向

佐藤 満洋

県内各地には多くの「郷土史」の研究会が組織されており、その数は五十八を数えている（『日本史研究総覧』地方史研究協議会編）。もっともこの数字は昭和五十二年度のものであるので、その後の誕生をみた研究会を加えるとその数は六十団体をゆうに越すものと考えられる。そして研究会の数の面からのみ考えると、福岡県の六十一について九州第二位であり、熊本県の四十三、宮崎県の十八などをはるかにしのいでいる。

そして右の六十余の研究会の大半が研究誌を発行しており、会員の研究成果が発表されている。またそれらの研究成果を基にして、大分合同新聞社刊の『大分の歴史』（全十巻）や各市町村史の刊行も相ついでいる。『日本史文献年鑑』（一九七九年版）によって、昭和四十三年中に刊行された著書や史料集、論文、報告書などの総数をみると、「通史・一般」が七十四点（著書や論文も同年鑑によって各一点と数えた）、「考古学」七点、「古代」十八点、「中世」十六点、「近世」三十五点、「近現代」十二点、「民俗学」二十四点となっている。この数字は二頁以上にわたる印刷物を原則として一点と数えているので、右の点数に数えられなかったものが相当数ある。このため、実際にはもっと多くの研究成果が発表されているのである。研究会の数といい、発表文献数といい、まさに県内の地方史研究は花盛りといった感がある。

しかし、これらの研究者同志はお互にすべての論文等を手にしあうことは出来にくいのが実情である。

さいわい、筆者は『日本史文献年鑑』の大分県の項の編集にたずさわっている関係上、筆者の手許に寄せられた研究会誌が若干あるので、それらの一部を紹介し、地方史研究会員諸氏に県内の動向を報告することにした。

### ▽宇佐文化（豊日史学）一六五号

これはかつての「豊日史学」が会誌のタイトルを「宇佐文化」と改めたもので、通巻四二巻一六五号となっている。同誌はA5版五十頁で、巻頭に会長中野幡能氏と名誉会長永岡光治氏の「あいさつ」を載せ、入学正敏氏、椋田美純氏の「ソウチコばやしー新しい宇佐民謡ー」が絵いりで宇佐の史跡を紹介している。そして中山重記氏の論文「宇佐宮の雅楽と伎楽」が収録されている。巻末に「サイクリング・遊歩コース」の紹介を載せており、宇佐の歴史を一般市民とともに研究しようとする試みが見られているユニークな会誌である。宇佐史談会（椋田美純氏）発行。

### ▽千古の歴史ー粉洞穴ー

これは本耶馬溪町教育委員会発行の、同町内の縄文遺跡粉洞穴の調査概報である。調査は別府大学と長崎大学によって行われ、執筆編集は賀川光夫氏と内藤芳篤氏があたっている。B5版十四頁に写真をふんだんに使って、わかりやすく編集されている。「粉洞穴の考古学」の章で、洞穴の位置と環境、粉洞穴の縄文土器、食糧と道具、埋葬、粉洞穴における土層と分析、などを解説し、さらに「粉洞穴の人骨」「人骨の形質」の章で縄文人骨の出土状況や、頭型、顔面、四肢、身長、粉洞穴の特徴などの解説が行われている。本耶馬溪町教育委員会発行。

### ▽山国町郷土誌叢書(一)(二)(三)

山国町教育委員会内の山国町誌刊行会から刊行されたA5版の叢書で、第一集は河野一氏「山国町の文化財」、溝口隆夫氏「草本金山史」を(一)(二)(三頁)収録、第二集は河野一氏の「山国農民と年貢」と「藤野木村騒動顛末記」(一五五頁)、第三集は河野一代の「山国の神社神道」と「幕府の法度と村おきて」(一四一頁)をそれぞれ収録している。「まえがき」によると、町誌として一本にまとめることをせず、叢書として「山国町郷土誌」を年間一〜数集を続刊するという。ユニークな町誌とし

て四集以下の続刊が期待される。山国町教育委員会発行。

#### ▽郷土研究(一)

豊後高田市郷土研究会の会誌で、会員の角田貢、筒井清芳、大波多一成、日浦保徳、清末秀文、渡辺宏紀、脇谷末雄、岩野勝、河野了、徳永典光、佐藤定、豊田一英、安藤慎子、安東宗一郎の諸氏が「豊後高田市報」に発表した研究成果をB5版で孔版印刷したもの。第一集は五十九頁で、「市内名木案内」、「史実と伝説」の二部からなり、三十六篇が収録されている。第二集は、「高田再発見」、「ふるさとの歴史」の二部からなり、前者が九篇、後者が二十三篇収録されており、いずれも楽しく読ませてくれる。第三集、四集の刊行が待たれるユニークな研究会誌である。豊後高田市郷土研究会発行。

#### ▽国東半島の文化(8号)

国東半島の文化を守る会の会誌。巻頭の会長西村英一氏の挨拶につづいて「専門委員故日浦保徳先生追悼」として、岩野勝、酒井光敏、渡辺宏紀の三氏が思い出を記している。そして「まつりについて」の報告として、岩野勝氏「白鳥神社の初祭」、河野了氏「歩射祭」、金田信子氏「国東庚申信仰」、土谷齊氏「庚申塔と庚申祭」の四篇が収録されている。さらに「調査研究」欄には宗哲三氏「生目八幡遺跡の謎」、鳥羽秀司氏「井上・十二灯石について」、永松祥一郎氏「和算学者古原三平の数学について」、北村昭二氏「地名について」、桑原清氏「古文書に学ぶ」、馬場始年氏「くにさき史談会の記録」、木村勝真氏「私の愛刀」の七篇、「文化財台帳」としては安岐町教育委員会の「安岐町文化財一覽表」、清末満氏「安岐町石造遺品その一」、土谷齊氏「香々地町庚申塔一覽表」が収録されている。A5版、六七頁。なお、同会は、会報B5版十頁も発行している。国東町鶴川、国東半島の文化を守る会発行。

## ▽臼杵石仏地域の民俗（B5版三三八頁）

本書は、臼杵市教育委員会が昭和五二年度国庫補助事業による「臼杵石仏地域民俗文化財緊急調査」の報告書である。執筆は主任調査員染矢多喜男氏をはじめ調査員の小玉洋美、橋本操六、加藤健一、川野孝慶、野崎一郎、河野了、大波多海、金田信子、秋吉心良、後藤正二の諸氏である。そして、第一章「臼杵の史的推移」以下、「炭焼小五郎の史実と伝説」、「信仰」、「人の一生」、「年中行事」、「神楽・娯楽・重戯」、「農耕と生業」、「運搬と交易」、「ムラと家」、「衣食住」の十章から構成されている。調査地域は臼杵石仏をとりまく臼杵市深田、下中尾、門前、荒田の四地域が中心で、若干石以外の地域におよんだ部分もある。本書は民俗調査の高度な専門書であると同時に、民俗調査の入門書として参考にできる好著である。臼杵市教育委員会刊。

## ▽佐伯史談 一一八号 B5版

事務局兼副会長の羽柴弘氏がせっせと鉄筆をとつての孔版印刷。同誌は県内はもちろん広く県外にも会員を擁する大きな研究会の会誌。筆者に寄せられた最新号の内容を紹介すると、巻頭言として、羽柴弘氏の「佐伯史談の使命」が載せられており、続いて史料紹介として御手洗一而氏「尾崎三良と徳富蘇峰」がみられる。清田義雄氏「四国の霊場を巡って」の旅行記、川田環氏の短歌「四国霊場巡拝の旅」、山内武麿氏「佐伯と国木田独歩四」、佐脇貫一氏「今宮さまの木像について」、羽柴弘氏「本匠村雜記」(一)、平田土半氏「四国霊場医王山薬王寺」、御手洗一而「藩祖毛利高政公」、古藤田太氏「中国訪問記」(三)、山本保氏「弥生町の小田井堰立札等一郷土碑文巡り(七)」、中村由子氏の「郷土史話、中の谷こそ泣く谷よ」などを収録しており、総合誌的な研究会誌である。佐伯市桶垣字竜護寺、佐伯史談会刊行。

## ▽九重町切支丹資料 文化財調査報告一輯・

▽二日市洞穴の調査 文化財調査報告二輯

▽九重町石造物資料 文化財調査報告三輯

右の三冊は玖珠郡九重町教育委員会が昭和五十二・五十三年に発行した町内の文化財調査報告書である。ともにB5版。「切支丹資料」は孔版印刷で五十九頁にわたって町内所在の切支丹資料を報告したもので、内恵克彦、岐部秀一郎、甲斐素純の三氏が調査編集にあたっている。

第二輯は、同町内二日市洞穴の一次・二次の調査報告書で橘昌信氏が執筆している。

第三輯は、同町内の石造物の調査報告で、調査執筆は同町文化財調査委員の内恵克彦、甲斐素純の両氏があたり、調査協力者として文化財調査委員の小幡鉄也、古後保彦、佐藤富士人、小野喜美夫の各氏が参加し、監修には入江英親氏があたっている。

九重町教育委員会発行。

▽宝八幡宮における宝楽(B5版三二頁)

▽松木の自然と歴史研究(B5版三三頁)

▽ふるさとの民話と伝説(B5版二三頁)

▽九重とともに(B5版二六頁)

右の四冊は九重町教育委員会が昭和五十三年度県委託事業の青少年地域活動促進事業による調査活動の成果をまとめた冊子である。これらは同町の青少年はもとより、町民にもテキストとして利用出来るよう編集されている。

「宝八幡の―」は同町松木の宝八幡宮の「宝楽」(県無形民俗文化財)を、甲斐素純氏が執筆したものであり、「松木の自然と―」は松木地区における自然と歴史について甲斐素純、佐藤三千代の両氏が執筆したテキストである。「ふるさとの民話と伝説」は、同町の青年団員が「八年間の文化祭のあゆみの中でみつけた伝説・民話をまとめた」もので、佐藤清隆、日野春

喜、梅野健二、小野泰助、佐藤幸二、長野元憲、時松博範、滝石三代治、堀博之、江藤雅子、小野勝義の諸氏が伝承の採集にあたっている。「九重とともに」は富田一主、山野いずみ、高橋賢至の諸氏と九重の自然を守る会少年クラブ員が調査し、富田一主氏が執筆したもので、九重の歴史・文化・自然について述べられている。いずれも九重町を知る好テキストである。九重町教育委員会発行。

▽わが町の郷土文化（B5版三三頁）

同書も五十三年度の青少年地域活動促進事業によって荻町教育委員会が編さんしたもので、町内の文化財、遺跡所在地一覽伝説・民話、民具、年中行事などをまとめており、荻町を知る好テキストである。荻町教育委員会発行。

▽敬 天（七号）B5版一一頁

日田市淡窓会の研究誌である。巻頭に同会々長畑英次郎氏の挨拶、つづいて高倉芳男氏「淡窓研究の根本問題」、首藤助四郎氏「咸宜園『官府之難』の一考察」、田中晃氏「和語陰隲録」、高倉芳雄氏「咸宜園門人伝(口)」、吉永信雄氏「日田の豪潮宝篋印塔」の諸論文が収載されている。日田市立博物館内淡窓会発行。

（大分県立大分女子高教諭・自宅大分市大石町二一一一三）